

平成19年1月10日
文 部 科 学 省

平成19年度「ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業」 の受託実施機関公募について

第3期「科学技術基本計画」（平成18年3月28日閣議決定）に基づき総合科学技術会議が策定したライフサイエンス分野の推進戦略では、戦略重点科学技術の1つとして「世界最高水準のライフサイエンス基盤整備」が掲げられています。生命情報の統合化データベースはライフサイエンス研究を支える基盤であり、その整備を進めるために必要な戦略の検討と技術開発を行なうため、「ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業」受託実施機関の公募を行います。

1. 公募の受付期間

平成19年1月11日（木）～平成19年2月8日（木）当日必着

2. 公募概要

(1) 本事業は、我が国のライフサイエンス関係のデータベースの利便性の向上を図るため、データベースの統合化を推進することを目的としています。

事業は、統合データベースの開発・整備に向けて、「戦略立案・実行評価」、「統合データベース開発」、「統合データベース支援」の3つの柱にて実施します。

提案にあたっては事業の3つの柱のすべてを担う中核機関として、または中核機関の下で「統合データベース開発」の一部を担う分担機関として提案することができます。

(2) 採択予定件数は中核機関1課題、分担機関1～3課題程度とします。

(3) 平成19年度の公募要領・申請書等、詳しくは下記ホームページをご覧ください。

文部科学省ホームページ (<http://www.mext.go.jp/>)

なお、この公募は、平成19年度予算の成立を前提に行うものであり、予算の成立状況によっては事業内容や実施予定額を変更する場合がありますので留意して下さい。

<制度に関するお問い合わせ>

文部科学省 研究振興局 ライフサイエンス課

担当：松永、石塚

TEL：03-6734-4369（直通）

E-mail：life@mext.go.jp（注：始めの文字はLの小文字です）

<書類作成・提出に関するお問い合わせ>

科学技術振興機構 キーテクノロジー研究開発業務室

TEL：03-5214-7990（直通）

E-mail：ltogoask@jst.go.jp（注：始めの文字はLの小文字です）

平成19年4月2日

文部科学省

「ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業」に関する 受託実施機関の決定について

文部科学省では、平成18年度から実施している「ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業」について、このたび、平成19年度以降、本プロジェクトを実施する受託実施機関を決定しましたので発表します。

1. 事業の概要

「統合データベースプロジェクト」は、我が国のライフサイエンス関係データベースの統合的活用システムを構築・運用し、幅広いライフサイエンス分野の科学技術の進展に大きく貢献することを目的としています（別紙1）。事業は、「戦略立案・実行評価」、「統合データベース開発」、「統合データベース支援」の3つの柱にて実施し、事業の3つの柱のすべてを担う中核機関、および中核機関の下で「統合データベース開発」の一部を担う分担機関の体制で実施します。

2. 決定した委託実施機関

外部有識者から構成される受託実施機関選考委員会（別紙2）において審査を行い、7件の申請機関から以下の機関（中核機関1件、分担機関3件）を受託実施機関として決定しました。

分担機関は連携して、化合物・医薬品、臨床・疾患等の医療に関わるデータベースの統合化を進めます。

【中核機関】

- 申請機関：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
研究代表者：高木 利久(情報・システム研究機構 特任教授)

【分担機関】（医療に関わるデータベースの統合化）

- 申請機関：国立大学法人京都大学
研究代表者：金久 實(京都大学化学研究所バイオインフォマティクスセンター センター長)
- 申請機関：国立大学法人東京医科歯科大学
研究代表者：田中 博(東京医科歯科大学情報医科学センター センター長)
- 申請機関：国立大学法人東京大学
研究代表者：徳永 勝士(東京大学大学院医学系研究科 教授)

(本件照会先)
研究振興局ライフサイエンス課
松永、石塚
TEL:03-6734-4106(直通)

統合データベースプロジェクト

別紙1

【事業の目的】 我が国のライフサイエンス関係のデータベースの利便性の向上を図るため、データベース整備戦略の立案・評価支援、統合化及び利活用のための基盤技術開発、人材育成等を行い、ライフサイエンス関係データベースの統合的活用システムを構築・運用する。

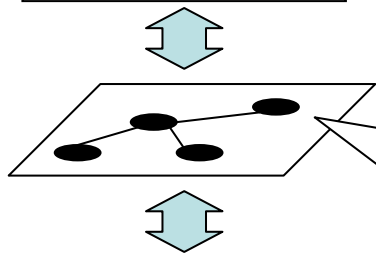
【想定される成果】 これまでの研究成果の蓄積を網羅的・安定的に利用できるようになり、ライフサイエンス研究の発展に不可欠な基盤となる。また統合化アルゴリズムの開発等による既存データの新たな活用や、産業界・医学関係者などによる応用利用を通して新たな知見が得られる。

統合データベースとは？

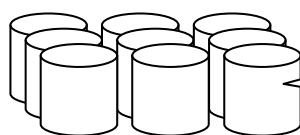
ライフサイエンス関連データベースの 統合的活用システム



人体、臓器、細胞モデルなどの直感的なインターフェース
→ユーザーが理解しやすい



類義語・関連語や統合的索引などライフサイエンス知識辞書
→類似情報の検索や比較、および各種データベースの一括利用が可能



各種データベースへの文献情報の付加、専門家による注釈
→高い利便性、信頼性

【実現するための方策】

※17年度～19年度：

内閣府連携施策群にて実施。

それを受け、文部科学省において、18年度統合DB開始

○18年度先行着手(19年度以降継続)

- データベースの現状調査、評価、整備戦略立案
- ポータルサイトの構築、運営
- 統合化技術の研究開発

○19年度以降本格着手

- 中核的機関整備(公募)による総合的推進
- 統合データベースの開発、運営
- 文献情報との連携やデータへの注釈付加
- 新たなデータベースの構築や活用した研究
- 維持困難となった有用データベースの受入
- データベース開発のための人材育成

